

九州建築選 2010

第4回 建築九州賞(作品賞)36選

(社)日本建築学会九州支部

CasaVilla 真地

Casa Villa Maji

伊良波朝義

IRAHA Tomoyoshi

所在地 沖縄県那覇市
建築主 (有)丈エステート
設計者 (有)義空間設計工房
施工者 (株)比嘉組・他



角地に建つ建築：2棟の板状型住棟の1棟を回転させて、バルコニー面（表）を道路側へ、廊下面（裏）を中廊下とすることで、どの方向からも表の表情となることを意識して計画しています。また、道路と建物の間に生まれたすきまを積極的に緑化し、通りを行きかう人へ潤いを与え、まちと建築とのゆるやかな繋がり方を提案しています。

現代的アマハジ空間：沖縄の伝統的な建築にみられる、庭と母屋の間にある軒下の半戶外空間をアマハジと呼び、日除けや談笑、作業の場として活用されていました。バルコニーの手すりを一部スクリーン化することで半戶外のアマハジ空間を造り、休憩や干場として活用し易く、また設備機器の目隠しとして、入居者とまちの景観に配慮することを提案しています。

スクリーンとしての花ブロック：台風の常襲地帯である沖縄は、強風に強く、潮風や強烈な紫外線にも耐えられる耐久性のある素材が求められます。コンクリートで製造される花ブロックは、耐久性を持ち合

わせながら通風を確保し、適度な目隠しも兼ねることができます。今回使用した花ブロックは、緋（かすり）のような、柔らかで涼しげなスクリーンとしてまとまりのあるオリジナルデザインを製作し、花ブロックによる表情づくりの可能性を提案しています。

子供達が安心して遊べるスージグァー（小道）：スージグァー（小道）は単なる交通移動空間だけではなく、かくれんぼや鬼ごっこ、こま回しにビー玉遊び、おしゃべりやおやつを食べたり、子供達が安心して過ごせる格好の遊び空間でした。しかし、交通量の増大や少子化、防犯的な観点から、スージグァーで遊ぶ子供達も少なくなりました。集合住宅の共用廊下をスージグァー化し、子供達の自然発生的な遊びを誘発することを狙っています。また、スージグァーを介して希薄になりがちな住民同士のコミュニティーの再構築を図る試みでもあります。